退屈しのぎ

ひさ子

幾日も前から降りつづいて居る雨は、今日も止みませぬ、太郎は紙鳶を揚げることもできず、花子は仲好のポチをつれて庭を遊び廻るわけにもまゐりませんから、室内で繪本を見たり、人形を排べたりして居りましたが、やがて二兒はお祖父様のお部屋に行き、

お祖父様何かお話をして頂戴、

お祖父様は、

エート、お話も大分種が盡きて來た今日は一ツお前達のまだ知らぬ新らしい事を敎へて上げよう、まづどんなのでもよろしいから、蓋のある小さな箱を三ツ持つておいで、

と仰いますから、二兒は喜んで自分の部屋へ飛んで行てチヤント三ツ揃へて參りました、すると

よし〳〵、今度は何か赤と白と青の三の球と數とりの物を二十四だけ探しておいで、

との事で、二兒は又三の球ときしやごを二十四だけ持つて參りました、之で箱三、球三、數とり二十四と揃ひまして お祖父様はまづ三の箱を前に排べ

て甲乙丙と御記しになりました、そしてクルッと後向になつて眼をつぶつて仰いますには、

俺は今こうして其方を見ないで居るからお前達は三色の球を別々にどの箱にでもお入れなさい。

それで二兒は甲箱に青、乙箱に赤、丙箱に白と入れてチャンと蓋をいたしました、お祖父樣は、

入れたかネ、今度は赤を入れた箱の前にきしやごを一ッ、白の箱の前に二ッ、青の箱の前に三ッ置いて御覽

二兒は其通りいたしますと、今度は

それから甲箱の前に今ある數と同じ數だけ加へなさい、そして乙箱の前には今ある數の二倍だけ、丙箱の前には今ある數の四倍だけ加へなさい

二兒はどういふ事になるのかと思ひながら其通にいたしました處がお祖父樣は、サーそれでよいといふので眼をあいて此方をお向きになり、のこりのきしやごや排べたきしやごや箱を見廻して首をかしげていらつしやいましたが、やがて、

ハヽー、お前達は青球を甲箱に赤球を乙箱に、白球を丙箱に入れたネ、

とスッカリ御あてになりましたものですから、二兒は大層不思儀がつて、お祖父様は私達が入れる時にソッと見ていらしつたのでせう。

とか何とか申します、お祖父様はナーニ、俺はソンナずるい事はしないよ、又私の眼はX光線ではないから箱の中までは透りません、それでもこういふ事を知つて居ればいつでもチャンと分るのです、お前達も之さへよくおぼえて居れば三の球をどの箱に入れたかキットあたりますよと仰つて次の樣な表を書いてお見せになりました、そうして其理屈は中々六ケしいとの事でありました、

(白)	(赤)
1…甲…乙	
2…乙…甲	
3…甲…丙	
5…乙…丙	
6…丙…甲	
7…丙…乙	

即ち數字は數とりの物の殘つて居るのを數を示すのでたつた一ッ殘つて居る時は、赤は甲箱に白は乙箱にあり二ッ殘つて居る時は赤は乙箱に白は甲箱にあるのにきまって居るので、殘りの數が三、五、六、七の時は表の通り、そうして三の球の内赤白の二ッが知れゝば今一ッの青の所在は自然定まるわけです

から、つまり右の表さへよくおぼへて居れば、數とりの殘りの數を見るとすぐにどの箱にどの球と言ひあてられるわけであります。

そこで二兒はおもしろがって代る〳〵に一人は眼をつぶってあてる人になり、一人はすきな樣に三の球を三の箱に入れそれから赤の前に一、白の前に二、青の前に三と置き、更に甲の前に今ある數と同じだけ、乙の前に二倍だけ、丙の前に四倍だけとお祖父樣の仰つた樣にしてさて、眼をあいて前の表に由りあてゝ見ますと幾度でもチヤンとよくあたります、

いかゞです、皆樣もためして御覽なさい。